東京都立五日市高等学校定時制課程　令和４年度学校経営報告
【今年度の取組と自己評価、達成度、課題と対策】

校長　　久保田　聡

（１）教育活動の目標と方策

項目		目　標	取組と自己評価	達成度	課題と対策
学習指導	ア	全教員がチャイムで授業を開始するなど授業規律を確立し、生徒が集中して学びに向かう環境を整える。	全教員がオンタイムで授業を開始する意識は醸成できている。	B	全ての授業において規律を確立し集中して学べる環境を整えるよう指導を進める。
	イ	生徒による授業評価を活用した情報共有と教科主任会主体の相互授業参観により、授業力の向上を図る。	教員の授業相互参観を行うとともに、授業評価に見られる傾向を分析し、多くの授業で改善傾向が見られた。	B	教科主任会を活性化し授業評価を確実にフィードバックできる仕組みを構築する。
	ウ	実験・実習の実施など 生徒の興味・関心を高める体験的学習の実践により生徒の主体的な学習活動の充実を図る。	理科、家庭科、英語等において積極的に体験的な授業を行った。	B	可能な限り多くの教科・授業で体験的な学習を取り入れていく。
	エ	アクティブラーニングを取り入れた授業実践により、生徒の学びに向かう力、コミュニケーション力や表現力の向上を図る。	グループでの協働学習や意見交換をする場面を積極的に設定し取り組むことができた。	B	引き続き主体的にかつ積極的に意見を表明し、考える場面を設定することで、生徒の力を培う。
生活指導	ア	日常的な身だしなみ指導、遅刻指導、挨拶指導等を全教職員により取り組むことで、生徒の基本的生活習慣を確立する。	全教員で毎朝登校時に挨拶、身だしなみの指導を行い、生活習慣の定着が進んでいる。	A	引き続き日常的に教員全員体制で取り組む。遅刻する生徒数の減少を目指す。
	イ	②避難訓練をはじめとした防災教育やセーフティ教室等の安全教育を充実させ、安全・安心な学校づくりを引き続き行う。	危機管理計画の更新及び外部機関と連携した防災教育等を実施。生徒の防災意識 100%	A	引き続き外部と連携し防災教育を進めるとともに、生徒防災委員会の活動場面を増やす。
	ウ	教職員の共通理解を図った上で、保護者との連携による欠席・遅刻・ 早退 等の指導などきめ細かな 指導を進め安定した学校を維持する。	生徒の変化を見逃さず気になる生徒へは随時電話連絡を欠かさない。その結果遅刻率が減少した。	B	教員により温度差が出ないよう全教員が同じ意識で保護者や関係機関との連絡を取り、情報共有できるようにする。
	エ	自殺防止に向けてＳＣや YSW と情報共有を行うとともに、SOS の出し方に関する指導を実践する。	生徒相談委員会等によりＳＣや YSW との情報共有ができた。支援体制への理解度は、生徒 80%、保護者 100%、教員 100%。	A	生徒相談委員会等、学校全体で取り組み、具体的な対応・支援方法の情報共有し実践する。

進路指導	ア	進路希望に応じたキャリア教育の推進と、地域との連携等により、生徒の進路への意識を高める 。	外部機関と連携するとともに、生徒が目標設定と振り返りを意識した指導を行うことができた。生徒の進路意識95%	B	引き続き外部機関を積極的に活用するとともに、目標を明確に持ち希望する進路の実現に向けて支援していく。
	イ	進路 希望に応じた進路ガイダンスの実施やインターンシップによる進路指導の充実を図る。	年間の進路行事は充実しており生徒の進路選択の材料は豊富である。	B	生徒の進路意識を高め、10年後を意識した進路選択ができるような仕組みを構築する。
	ウ	グループエンカウンターの実施に よりソーシャルスキルの向上を図り、社会人となる意識を向上させる。	１、２年生を対象にグループエンカウンターを実施し、ソーシャルスキルの向上を図った。	A	今後は、グループエンカウンターの時間以外にも、力を付けられる機会を模索する。
	エ	自立支援チームを中心に高校生の社会的自立を目指す進路支援事業を活用し、進路意識の向上を図る。	生徒との面談を繰り返し行う中で、必要なことを伝えるなど、きめ細かく対応している。	B	希望する進路を目指せるよう、自立に向けた支援を効果的に行う。
特別活動	ア	文化祭等の学校行事や委員会活動において、生徒の自主的、主体的な活動の充実を図る。	担当する分掌はじめ多くの働きかけにより生徒主体の活動ができつつある。生徒の活動参加意識、委員会等 80%、学校行事 80%。教員の認識、委員会等 100%。	B	引き続き、学校行事に積極的に取り組めるように指導・支援するとともに、委員会等の活動にも生徒が主体として取り組めるよう支援する。
	イ	オリンピック・パラリンピックの レガシー として 、講演会等を通じて意識を向上するとともに、オリンピック・ パラリンピック教育の継続を図る 。	日本トップレベルの現役選手からの直接の指導や講義などにより、効果的にスポーツ志向を高められた。	A	スポーツ界で大きな功績を残した方に直に触れることで意欲を高められるよう、継続して実施していく。
	ウ	外部専門機関と連携して、社会人として必要な意識の向上を図るなど主権者教育を推進する。	選挙や年金等、様々な生徒を対象に主権者教育を実践することができた。	B	社会に出た際に必要となる知識等を専門的な視点から継続的に取り組む。
	エ	総合的な探究の時間、教科指導、行事等における図書館の活用と読書習慣の確立を推進する。	授業等での利用に加え、図書委員会による読書行事を推進した。	A	授業内外で生徒の主体的な図書室利用を引き続き進める。
健康作り	ア	部活動への積極的な参加を促進し、自主的、自発的な活動を通して、豊かな人間性や協調性、リーダーシップなどを醸成する。	入部している生徒の意識は高い。部活動への参加意識、生徒 80%、保護者、教員 100%	B	部活動の加入率を上げるとともに、活動を活発にすることが大きな課題である。

	イ	「TOKYO ACTIVE PLAN for student」に基づく体力テストの活用をはじめ保健体育の授業による体力向上を図る。	体力テストの結果を活用し、体育の授業で毎時間８分間走と補強運動を行い基礎体力の向上に取り組んだ。	B	保健体育の授業時や部活動において、体力向上や運動への意欲を更に高めるための取組に力を入れる。
	ウ	自校調理の給食の喫食率の向上を目指すとともに、食育の実施による健康作りを推進する 。	コロナ禍で食育の実施が困難であり、毎回の給食での一言メモを配布するなどして健康作りに取り組んだ。	B	適切な食習慣を身に付けられるよう、特に給食未受給者向けに食育等のアプローチ方法を検討し、喫食率の向上を図る。
	エ	ＳＣやＹＳＷを活用、特別支援委員会を中心とした個別指導の充実により、生徒の心身の健康を増進する。	定期的に情報共有の場を設け、生徒・保護者がスクールカウンセラーや YSW を活用しやすい環境を構築し、安定した学校生活を実現することができた。	A	生徒一人一人の状況にあった対応および校種別研修会を実施。今後も引き続き悩みや迷いに対して早めにアプローチできる環境を維持する。
	オ	新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、感染拡大を防ぎながら衛生面での学習環境を充実させる 。	支援が必要な生徒の情報共有を円滑にすすめるために情報共有の場も設定し、組織的に対応した。	A	毎年情報を更新する必要があるため、年度当初に確認を行い、情報の共有を図る。食物アレルギー研修等必要なことは繰り返し行っていく。
	カ	発達障害に関する知識を全教員で共有し、個別の案件に対して適切かつ丁寧に対応する。	小学校から高校までの研修会を初めて企画し実施することで、情報共有することができた。	A	次年度も開催し継続した研修体制を確立する。
広報活動	ア	特色ある教育課程を踏まえた学校案内、簡易版のチラシ及び学校紹介動画によりＰＲを充実させる。	本校の特色を踏まえた学校案内や本校の特色ある取組をまとめたチラシを作成し、ＰＲを行った。また、生徒会を中心に「まなびゅ～」を作成しホームページでもＰＲした。	A	学校説明会等で活用する資料をホームページにより更新し、本校の取組や特徴などがより理解しやすい資料を作成し、効果的な入試相談を実施する。
	イ	②全員体制による中学校訪問を確実に実施し、組織的・計画的なＰＲを推進する。	教員全員で分担して近隣中学へ訪問を行った。訪問校数や資料送付校は増加した。その結果応募者数も増加した。	A	引き続き、学校紹介を行うことができる機会を増やせるように計画する。 ホームページの更新を引き続き行うとともに、ホームページを見てもらえるように工夫を検討する。

	ウ	見やすいホームページの作成と定期的な更新、学校見学会や学校説明会の充実など、積極的な広報活動を確実に進める。	感染症対策を講じて学校見学会や学校説明会を行うことができた。学校を紹介する機会を増やし積極的な広報活動を行った。ホームページの更新を積極的に行うことができた。	A	引き続き感染症対策を講じながら、学校紹介を行うことができる機会を増やせるように計画する。ホームページの更新を引き続き行うとともに、ホームページを見てもらえるように工夫を検討する。
学校運営	ア	全教職員が学校改革への意識を高め共有することで、改革を推進する。	教員の学校経営参画意識は高くなった。	A	変化の中で機敏に対応できる校内体制を探っていく。
	イ	きめ細かい指導、生徒の主体的な活動を推進し、生徒及び保護者等の満足度の高い学校づくりに取り組む。	定期的に情報共有の場を設け、生徒・保護者がＳＣや YSW を活用しやすい環境を構築し、安定した学校生活を実現することができた。	A	生徒一人一人に丁寧に声を掛け、変化を見逃さない指導を継続的に行う。些細な情報も共有し、全教員で取り組むことで生徒及び保護者の満足度を高める。
	ウ	校務分掌内の協働体制を一層充実させ、校務の円滑な運営と諸課題の解決を図っていく。	週１回程度の企画・職員会議で組織的な学校運営はかなり円滑に進んでいる。	B	各分掌や学年の現状と課題を共有し、一つ一つ着実に解決できるよう引き続き取り組む。
	エ	学校いじめ防止基本方針に基づき、年３回の調査を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。　全員体制による定期的な校内外の巡回により、いじめなどの問題行動の未然防止を推進する。	定期的な巡回指導に取り組むとともに、精神的なサポートを行い、問題行動を未然に防止した。いじめアンケート調査を年３回行い、調査結果に基づいていじめ対策委員会を行うことでいじめの未然防止につなげた。	B	規範意識等の意識を身に付けさせ、問題行動の未然防止に向けた環境を全教職員で整備をする。
	オ	体罰防止に関する生徒理解を推進するとともに、　計画的な教員研修により体罰根絶に向けて全校的に取り組む。	体罰防止研修を年３回実施し、体罰防止について教職員の意識を高めた。	A	体罰防止研修の内容を工夫し、引き続き体罰根絶に向けて意識を更に高める。
	カ	クリーンデスクや業務縮減、個人情報管理の徹底等に向けて職員室の環境改善を進める。	年３回の服務事故防止研修と日頃の声掛けにより個人情報の管理への意識が高まった。	A	クリーンデスクはかなり進展したが、引き続き繰り返し声を掛ける必要がある。
	キ	学校経営計画及び予算編成指針に基づき、計画的な予算執行、施設・備品管理、学事、環境整備などについて、円滑かつ適切な進行管理を図る。	予算執行率 96.1%、一般需用費のセンター執行割合 56.0%など、効果的・効率的な予算執行を行えた。	B	企画室職員との日常的なコミュニケーションの場を意識して設け、風通しの良い職場を目指す。

	ク	全日制課程と定時制課程の連携を深め、双方の教育活動を一層理解することで、学校の安定化及び活性化を推進する。	ヨルイチでは全定連携した取組ができた。全定各分掌が連携を密にし、双方の教育活動についての理解を深め互いに尊重し安定して取り組めた。	A	今後も、教員間はもとより、生徒間でも互いを尊重する精神を培い、互いに高め合えるような取組を行う。

（２）重点目標と方策

	目　標	取組と自己評価	達成度	課題と対策
①	総合的な探究の時間の４年間の全体計画を立て、探究力や社会力を身に付けられる取組を推進する。	令和５年に向けて、地域との連携を視野に入れた探究活動をまとめた。	B	地域との連携を図るため、具体的な４年間の内容を計画し具体化していく。
②	基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習意欲を高める。	全教員で授業方法の共通の改善目標を設定しわかりやすい授業を実現した。ＳＳＣを３回実施。	B	授業改善を継続し、分かりやすい授業の在り方を追求する。
③	観点別学習状況の評価を確実に実施し、授業力の向上を図る。	観点別学習状況の評価を実施、定着した。	B	生徒の授業評価アンケートをフィードバックして、毎年度評価規準を見直しする。
④	生徒の心身の健康を向上させるとともに、教育活動全体に対する意欲の向上も推進する。	体育の授業の補強体操や運動系部活動の活性化を図った。	A	外部機関との連携を図り、健康管理セミナーを実施する。
⑤	地域に開かれた学校づくりとして、自治体、小・中学校、関係機関等と協働して取り組む。生徒の達成感や自己有用感を醸成する。	小・中学校、関係機関等と連携した研修会や天体観望会を実施。	A	本取組に対する参加者の反応は好評で、引き続きの実施に向けて調整を図る。
⑥	ＯＪＴや校内研修の充実を図る。	相互授業参観や模範授業の参観を推進した。	B	校内で研究授業を活性化する。
⑦	ライフ・ワーク・バランスの推進に向けて、各分掌、各学年及び各教科で校内業務の整理と効率化を図る。	ペーパーレス会議の定着により、業務の効率化を図ることができたが、業務量が多く整理する必要がある。	B	業務を効率化させるための工夫を検討する。また、分掌内の業務量の平準化に取り組み定時退庁を意識した業務を推進する。

【達成度】　Ａ：達成できた。今後も継続する。達成率 80%以上
Ｂ：おおむね達成できた。より良くなるよう改善を図る。達成率 50%以上
Ｃ：達成できていない。改善が必要である。達成率 50%未満

（３）数値目標

	目　標	令和２年度	令和３年度	令和４年度	課題と対策
①	生徒の授業満足度 80%以上	89.0%	97.6%	94.3%	各授業の評価に大きな開きがある。組織的な授業改善を引き続き図る。
②	進路決定率 70%以上	100%	70.0%	100%	就職希望内定率 100%を次年度も目標として継続するとともに、キャリア教育を更に充実させる。
③	遅刻回数１人月平均５回以下	1.59 回	2.39 回	2.18 回	遅刻の常習化を断つ粘り強い指導等を行い基本的な生活習慣の定着や規範意識の醸成を全教職員で引き続き取り組む。
④	中途退学者 10 名以内	０名	５名	４名	引き続き個に応じた丁寧な指導を展開し自校に対する強い帰属意識を醸成する。